

平成23年度

静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会要望書提出記録

1 日時 平成23年11月7日(月) 13:00~14:00

2 場所 静岡県庁舎8階 西館第1会議室

3 参加者

静岡県教育委員会	学校人事課参事兼課長補佐	橋本 勝
	学校人事課管理主事	西山 義則
	学校教育課小中学校班長	鈴木 いずみ
	学校教育課 課長	田中 潤
	学校教育課 小中学校主任	大石 成伸
	学校教育課 特別支援教育推進室指導主事	佐藤 容子
	学校教育課 小中学校班指導主事	川口 郁代

静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会	会長	宇佐美昌好
	事務局長	岡田 吉弘
	事務局員	中野 宣昭

4 協議

平成23年度 静岡県言語・聴覚・発達教育研究会要望者提出記録まとめ

1. サテライト指導と教育相談等に関する正規業務の位置づけと旅費の予算化について 静言研より

<サテライト方式導入による成果>

- ・ 服務時間の負担の軽減になった。
- ・ 児童の指導が長期的、継続的に行うことができるようになった。
- ・ 保護者の送迎の負担の軽減になった。

<課題、検討事項>

- ・ 子どもや保護者、学校のニーズに応じてサテライト校や指導時間帯の柔軟な実施を。
- ・ 費用の面で予算付けをお願いしたい。

県より

- ・ サテライト指導については、アンケートをとっているのですが、子ども、保護者、担当教員の三者へのメリットがしっかり出るように成果と課題を明らかにした上で若干は増やしていく方向で検討していきたい。
- ・ サテライトに伴う旅費については、費用の面も重ね合わせながら、若干の配慮はできると思われる。
- ・ 教員として授業を中心に考えていくと難しい面もあるが、保護者との対応に時間がかかることも理解している。

2. 通級指導教室の新設について

静言研より

- ・ 小学校の言語障害指導教室、および小中学校の発達通級指導教室への入級希望者が増えている。特に中学校における発達通級指導教室が県下では浜松市3校であるが、今後追跡調査をして、中学校の現状を把握していく必要があると考える。

県より

- ・ 小学校においても十分な設置ではないと各市町は捉えている。市町の要望は小学校として出てきてしまうので、中学校まではいかない。
- ・ 中学で不登校や問題行動を起こす生徒の中には発達障害を抱えている生徒も少なくない。そのような子供たちに対しは、生徒指導だけでなく、違う支援の仕方もあると思われる。中学での生徒指導の一例一例を見ていくと、非行行為をおこした子の中には人間関係をうまく作ることができなかつたことが原因になっていることもある。二次的・一次的な障害の予防という面でも大事なことだろうと捉えている。

3. 幼児ことばの教室について

静言研より

- ・ 幼児ことばの教室の啓発が必要である。(特に東部地区)
- ・ 幼児指導者への正規職員の配置が必要。(早期教育の大切さから)

県より

- ・ センターの指導主事が幼稚園の訪問をしている。幼児のことばの教室があることを知らない園もあるので広めていく必要もあるし、それが私たちの仕事でもある。研修会の中でも見学、参観を入れたりして、広めていこうと考えている。
- ・ 市町がかなり努力しているのを把握している。市町によって温度差もあるが、小学校にとって大きなメリットがあるので、市町に私たちがお願いしていくことはできるのでお願いしていきたい。
- ・ 専門性は、教員の学ぶ意欲、情熱によるところが多い。次を育て継続的に次の代につなげていく必要がある。これも今後の課題になる。